

**カメムシの
適期防除で
品質向上!**

令和3年
夷隅地域水稻生育情報
第2報

令和3年6月18日
夷隅農業事務所
改良普及課
TEL 0470-82-2213
FAX 0470-82-3975

生育概況

強風や低温の影響で移植直後の分けつは停滞気味でしたが、5月以降の気温は平年よりも高く推移した結果、茎数は平年と比べてやや少～並となりました。

幼穂形成期は、「ふさこがね」で平年よりも1日早くなり、「コシヒカリ」では2日早くなりました。一方、「粒すけ」の幼穂形成期は昨年よりも5日遅くなる見込みです。

生育状況は、「ふさこがね」で草丈が高く推移しています。「コシヒカリ」の茎数は平年並みですが、今後分けつが進むことが予想されるため、生育が旺盛なほ場では、倒伏軽減のため、穂肥の施用時期・量に注意しましょう。

表1. 夷隅地域での作柄調査ほの平年比生育状況（6月15日現在）

品種	調査場所	植付時期	幼穂形成期 (平年値)*	平年比*			
				葉齢の進み	草丈	茎数	葉色
ふさこがね	大多喜町 下大多喜	4月20日	6月13日 (6月14日)	並	高	並	並
コシヒカリ	いすみ市 松丸	4月20日	6月17日 (6月19日)	やや遅	並	並	並
粒すけ	いすみ市 島	4月19日	6月22日 (6月17日)	遅	やや 低	やや 少	並

※ 粒すけは調査2年目のため、昨年度と比較した結果を示しました。

1. 【穂肥の施用について】

安定した収量、品質の確保には、水稻の生育を観察して穂肥の施用時期と施肥量を判断することが重要です。品種、土質ごとに目安は異なるため、表2、表3から確認しましょう。

表2. 穂肥施用量の目安

品種	壤土	粘土
ふさおとめ	窒素3kg+加里3kg	窒素1~2kg+加里3kg
ふさこがね		窒素2~3kg+加里3kg
コシヒカリ		窒素2kg+加里3kg
粒すけ		窒素2kg+加里3kg

※ 表3の生育目標値やほ場の地力を踏まえて施肥量を調節しましょう。

※ 施肥量の調節等でお困りの際は、農業事務所へお問合せください。

表3. 穂肥時期、生育量の目安（50株植えの場合）

品種	施用時期	生育目標値		
		草丈	株あたりの茎数	葉色*
ふさおとめ	幼穂形成期から1週間以内 (出穂期25日前~18日前)	55cm以下	34~37本	4.0
ふさこがね	幼穂形成期から1週間後頃 (出穂期18日前頃)	60~65cm 以下	29~33本	5.0
コシヒカリ	幼穂形成期7日後から15日後 (出穂期18日前~10日前)	70cm以下	28~36本	3.5~4.0
粒すけ	幼穂形成期から1週間後頃 (出穂期18日前頃)	65cm以下	36~39本	5.0

※ カラースケールの値。

2. 【病害虫対策について】

(1) 紋枯病

株元の葉鞘から楕円形で灰白色の病斑が発生し、収量の低下、白未熟粒の増加、倒伏につながります。過剰な分けつ、高温多湿で発生が多くなります。出穂期 15 日前頃に発病株が 15% 以上の場合、表 4 を参考にして防除しましょう。

(2) 稲こうじ病

籾に暗緑色の孢子塊が発生し、等級の低下、不稔籾の増加、千粒重の低下につながります。穂ばらみ期～出穂期の低温多湿で発生が多くなります。

銅水和剤（ドイツボルドーA 等）で防除する場合は、出穂期 21～10 日前に散布しましょう。シメコナゾール剤（ガッツスター粒剤、ゴウケツモンスター粒剤、モンガリット 1 キロ粒剤等）で防除する場合は、出穂期 21～14 日前に散布しましょう。

(3) 斑点米カメムシ類

畦畔除草は、出穂期前後 2 週間を行わないようにしましょう。除草に伴い、カメムシが畦畔からほ場内に移動し、斑点米の増加につながるためです。

薬剤散布は穂揃期（8～9割の穂が出た状態）に行います。効果が現れるまでに時間のかかる剤は穂揃期よりも前に散布しましょう（粒剤は3～4日前、豆つぶ剤は4～7日前）。大型カメムシに対しては、液剤、粉剤等のカメムシに直接散布する薬剤が効果的です。

穂揃期の防除後もカメムシの発生が多い場合は、出穂期 15 日後頃に追加で薬剤散布をしましょう。ただし、収穫までの使用可能日数を必ず確認しましょう。

表 4. 紋枯病、稲こうじ病で登録のある薬剤例

対象病害	薬剤名	散布量 (希釈倍数)	使用時期
紋枯病	モンカット粒剤	3～4kg/10a	出穂30～10日前 ただし、収穫14日前まで
稲こうじ病	ドイツボルドーA	60～150L/10a (2,000倍)	出穂10日前まで
紋枯病・ 稲こうじ病	ガッツスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで ただし、収穫45日前まで
	ゴウケツモンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで ただし、収穫45日前まで
	モンガリット1キロ粒剤	1～1.3 kg/10a	収穫45日前まで



稲こうじ病の孢子 紋枯病の病斑(JPP-NET より引用)

表 5. カメムシ類で登録のある薬剤例

薬剤名	散布量 (希釈倍数)	使用時期
キラップ フロアブル	60～200L/10 a (1,000～2,000倍)	収穫14日 前まで
スタークル 液剤10	60～150L/10 a (1,000倍)	収穫7日 前まで
スタークル 粒剤	3kg/10a	収穫7日 前まで
トレボン 乳剤	60～150L/10 a (2,000倍)	収穫14日 前まで

農薬を使用する際はラベルをよく読み、適正使用に努めましょう。